庚申塔と馬頭観音について教えて！

座光寺には石仏といわれる石碑が数多く残されています。旧道の辻や道端に建てられている庚申塔が26基、馬頭観音像は200基以上あります。どこにどんな庚申様や馬頭さんがあるか探してみたいと思います。

古い庚申塔はどこにあるか

庚申塔とは、61年目に来る「かのえさる」の年に、青面金剛の像を刻んだり、文字の塔を造って、村人の健康や豊かな生活を願って建てられました。この庚申塔の多くは旧道の辻に建てられています。座光寺には、現在のところ、庚申塔は26基ありますが、その内、300年ほど前のものが８基あります。一番古いものは正泉寺の庚申様で、310年以上前の元禄７年のものがあります。原の秋葉辻と水月庵の古い庚申塔のほかは、五郎田・流田・下羽場・中羽場・欠野・恒川清水にあります。五郎田から恒川にかけた一帯は、江戸時代の始め頃から屋敷の多いところで、古い歴史を示す石仏の集まりということができます。

正泉寺墓地の庚申塔

欠野辻の庚申塔

馬頭観音はどこに祀られたか

頭の上に馬頭を頂く観音様で、馬を守護する仏様でもあります。多くは道筋に建てられています。座光寺全体では200基ほどの馬頭観音様が残されています。年代不明のものも50基ほどありますが、1810年ころ（文化年間）以前のものも20基ほど残されています。江戸時代から昭和の初めにかけては、馬は農家の大切な働き手でありました。重い荷物の運び手は馬でしたから、道中の安全を願って道筋に馬頭さんが祀られたと思います。上河原から高岡を通り、古市場・半の木から入山へ行く旧道筋には25基以上の馬頭さんが残されています。旧道の位置を知ることのできる石造仏ということができます。

如来寺境内の馬頭観音像

中羽場阿弥陀堂の馬頭観音像

大門の馬鳴菩薩

耕雲寺から休石墓地へ下る大門通りに沿って、馬に乗る菩薩様の大きな像があります。高さ180cm・幅106cmの大きな像で、1801年（享和元年）に耕雲寺の16世舜翁和尚が、村人や馬の安全を祈願して建てたと記されています。

馬頭観音像かどうか分かりませんが、「馬鳴菩薩」ともいわれています。飯田・下伊那地方でも、こんな大きな立派な像はほかにはありません。

大門馬鳴菩薩像

（今村善興）

善光寺巡礼道と元善光寺道

江戸時代以前から全国各地より善光寺詣りをする旅人が多くありました。その途中で如来寺へ立ち寄る人々も多くありました。これらの旅人のために道標が建てられました。座光寺には善光寺道と元善光寺道の道標が3基あります。上黒田や下市田を含めると6基以上あります。どこにどんな道標があるか調べてみたいと思います。

善光寺巡礼道の道標

江戸時代には遠く九州からも「善光寺詣り」の旅人が座光寺に大勢立ち寄った記録が多く残されています。旅人のために、旧伊那街道（現在の県道飯島－飯田線）にはところどころの街道辻に「道しるべ」が建てられました。善光寺巡礼道の道標といわれます。原の秋葉辻に古い道標が残されています。石には、「善光寺巡礼・座光寺江道」と刻まれ、建てた年代は1740年（元文5年）ですから、現在のところ、飯田・下伊那地方では最も古い道標であります。

座光寺　如来の道標

善光寺巡礼道の道標の反対側に、三段の石組の上に高さ2メートルほどの石柱があります。中央には「南無阿弥陀仏」横に「善光寺旧跡座光寺　如来入口」と書かれています。建てられた年代は1808年（文化5年）で、飯田の伝馬町や池田町（現在の通り町）の人々が建てております。「座光寺　如来入口」と書かれていることが大切で、この頃の如来寺の言い表し方の一つとして注意したいと思います。

原秋葉辻の善光寺巡礼道の道標

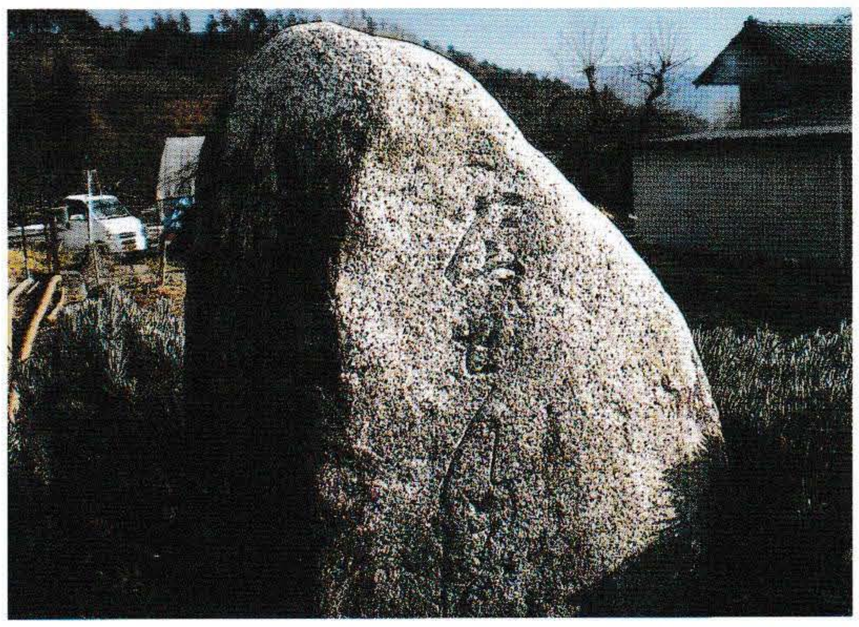
原秋葉辻座光寺　如来の道標

元善光寺道の道標

古市場水月庵の前に元善光寺道の道標があります。建てられた年代は分かりません。「右　もとぜんこうじ」「左　ぜんこうじ」と刻まれています。原の伊那街道から古市場へ下りる道と、小寺子から下市田へ通ずる旧道の交差点に建てられていたと思われます。半の木から古市場へ通ずる道は　如来寺へ行く主要な道の一つでした。

唐沢から上郷上黒田へ行く道で、上黒田の坂頭にも「もとぜんこうじ」の道標があります。この道標にも年代が刻まれていません。下市田にある「もとぜんこうじみち」の道標にも年代が刻まれていません。「元善光寺」と呼ばれるのは江戸時代の終わり頃ですから、年代を決める証拠の一つになるかと思われます。

これらの道標のある旧道は、麻績の里遊歩道のコースへつながる道でありました。



水月庵前の道標

麻績の里遊歩道

（今村善興）